

継続事業評価調書

【道路事業】

主要地方道 小野藍本線

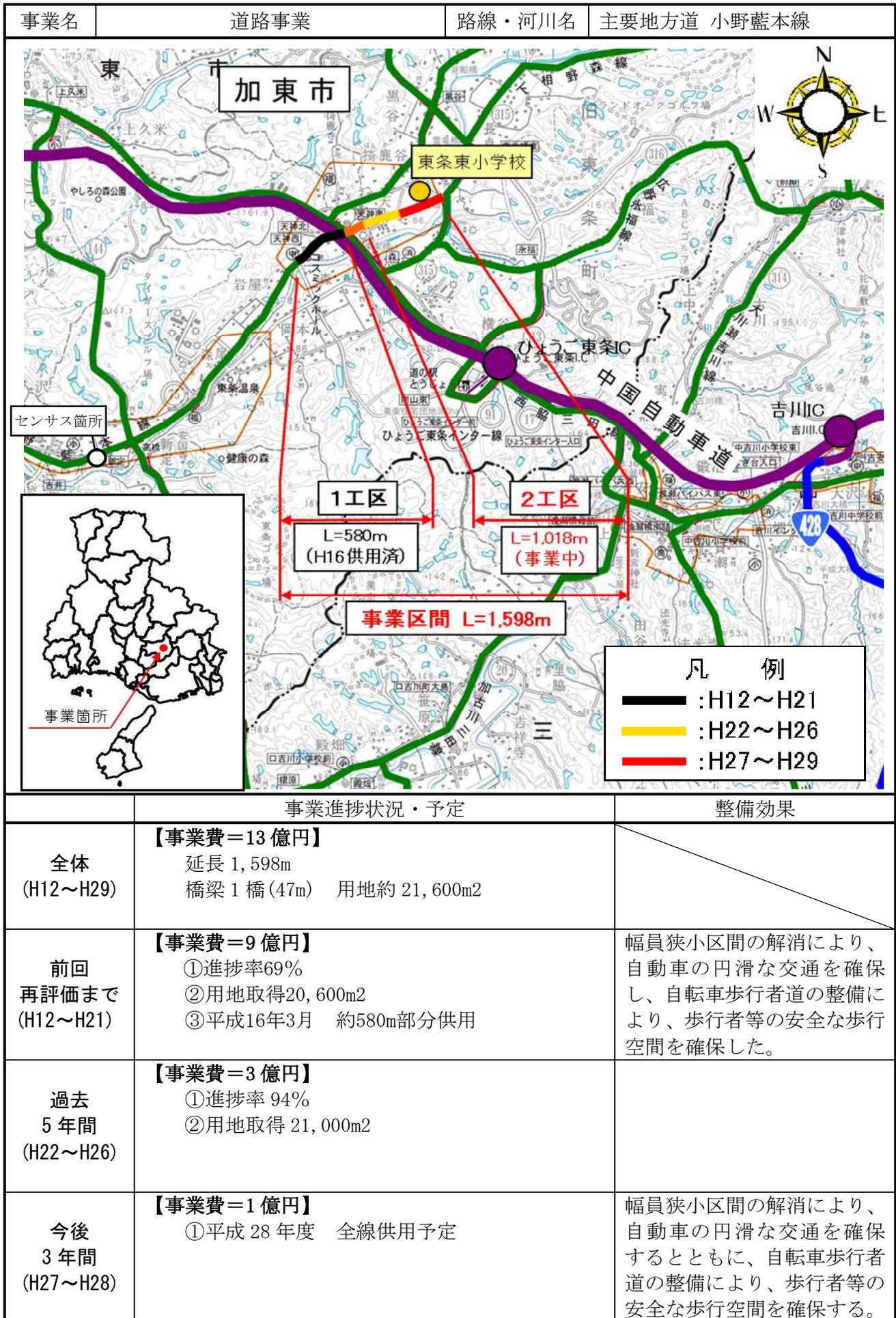
県土整備部

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 門間 俊幸 (県道班長 金川 正敏)	内線	4362 (4376)
事業種目	道路事業	新規評価	H12	今回評価	前回評価
事業名	道路改築事業 主要地方道 小野藍本線	事業採択	H12	総事業費	13 億円
		着工年度	H12	内用地補償費	6 億円
		再評価年度	H21	完成予定年度	H28
事業区間	加東市天神 ^{てんじん} ～長貞 ^{ながさだ}	進捗率 (内用補進捗率)	94% (98%)	75% (98%)	
		残事業費	1 億円	3 億円	
事業の目的			事業内容【 】：前回評価時点		
<p>・本路線は、旧東条町の中心地を経て、小野市と三田市を結ぶ幹線道路である。また、事業区間は、旧東条町の中心地で、福祉のまちづくり重点地区であることから、生活道路としても重要な役割を担っている。</p> <p>○幅員狭小区間の解消 現道は幅員狭小で、大型車のすれ違いが困難であることから、自動車の円滑な交通を確保する。</p> <p>○自転車・歩行者の安全性確保 現道は一部通学路利用されているものの、歩道が未整備であることから、バイパスへの通過交通の転換と歩道整備により、歩行者の安全な歩行空間を確保する。</p>			<p>延長：道路改築 1,598m(内 580m 供用) 構造規格：第 4 種 3 級 幅員 計画：2 車線 両側自歩道 3.5～4.5m 車道 6.0m (全幅 14.0～16.0m) 現況：2 車線 歩道無し 車道 5.5m(全幅 5.9m) 計画交通量：4,200 台/日 (H42 年予測) 【5,000 台/日(H42 年予測)】 現況交通量 (H20.7 実測) 自動車：3,550 台/日 [負担割合：国 55%、県 45%]</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>①本事業区間付近の天神東掬鹿谷土地区画整理事業（平成 19 年度より組合施行）が平成 26 年度に完了する予定である。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画の変更概要】</p> <p>①用地買収にあたり、相続問題や代替地確保等により用地取得が遅延したことから、完了予定年度を平成 28 年度に変更する。</p>				
進捗状況	<p>① 1 工区(580m)は、H16 年 8 月に供用済み。</p> <p>② 2 工区(1,018m)のうち、土地区画整理区域内工事及び橋梁工事(約 390m)は完了し、ほ場整備区間(約 560m)は概成している。今後は未買収地(約 70m)の用地取得完了後、道路改良工事を進め、平成 28 年度の供用を目指す。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び 対応方針 (H21 再評価)	<p>【審査会意見】</p> <p>継続妥当</p>				
(1) 必要性	<p>①現道区間は幅員狭小で、大型車のすれ違いが困難であることから、自動車の円滑な交通を確保する。また、歩道未整備区間を解消するとともに、本事業の整備により現道の交通をバイパスに転換させ、自転車・歩行者の安全性を確保する。</p> <p>②区画整理事業と一体となって整備することにより、まちづくりを支援し、地域の活性化を図る。</p>				
(2) 有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>①費用便益比 B/C=3.1(全体) (前回評価時点 B/C=3.4)、B/C=20.7(残事業)</p> <p>②事業完了後の現道の管理引継について、加東市と協議が整っている。</p> <p>③用地取得は概ね完了しており、平成 27 年度に用地取得完了の見込みである。</p> <p>④東条東小学校から、通学利用として早期供用が期待されている。</p>				
(3) 環境適合性	<p>①歩道部を透水性舗装にすることで、雨水の還元を図る。</p>				
(4) 優先性	<p>①区画整理事業（組合施行）が平成 26 年度に完了する見込みであり、早期整備の必要性が高まっている。</p>				
再評価 の結果	継続	理由	<p>①事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。</p>		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）



位置図



加東市

天神東拵鹿谷土地
区画整理事業区間

ほ場整備
事業区間

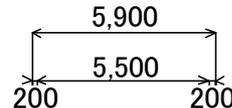
東条東小学校

ひょうご東条IC

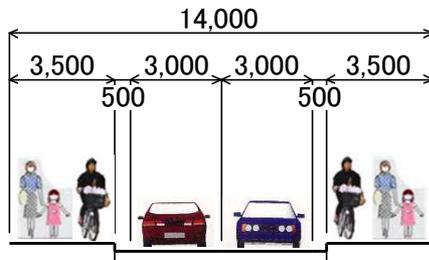
吉川IC

三木市

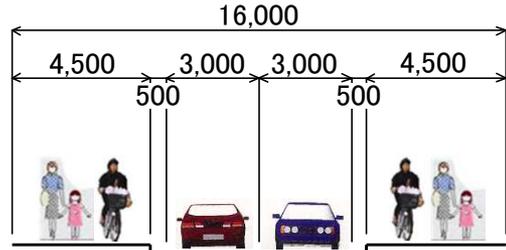
現況断面図



計画断面図(ほ場整備区間)



計画断面図(区画整理事業区間)



5,751台/日

凡 例

- : 高速道路
- : 国道
- : 県道
- : 市道
- : 事業区間(事業中)
- : 事業区間(供用済)
- : 福祉のまちづくり重点地区

主要地方道 小野藍本線
(H12~H28)

L=1,598m W=6.0(14.0~16.0)m
全体C=13億円

1工区

L=580m
(H16供用済)

2工区

L=1,018m
(事業中)



整備状況図

【1工区】平成16年3月供用済み
 【2工区】事業中



2工区 L=1,018m(事業中)

1工区 L=580m

(H16年供用済)

市道

県道 小野藍本線(現道)

東条東小学校
(ほ場整備区域)

(区画整理区域)

加東市役所
東条庁舎

東条中学校

図書館
文化会館

至 小野市

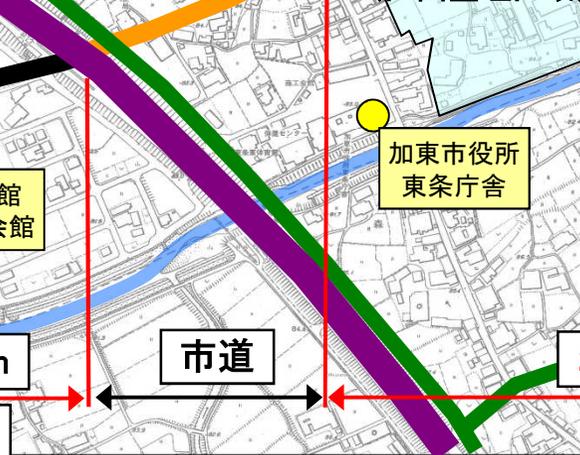
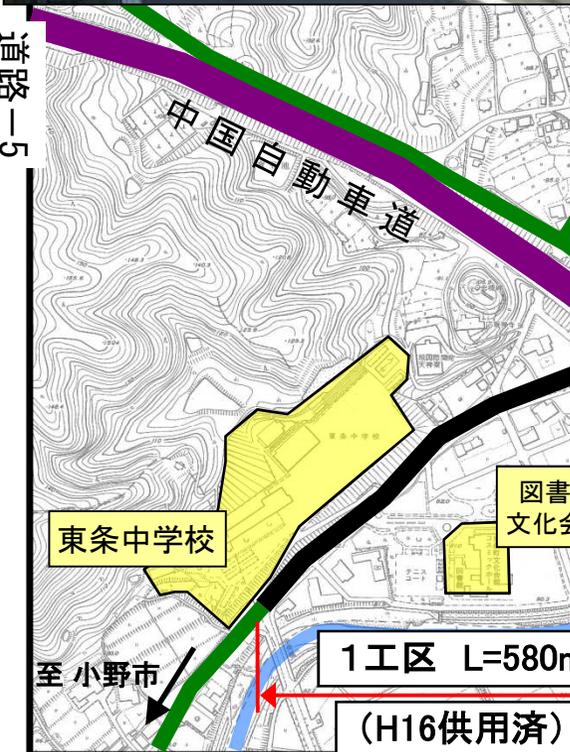
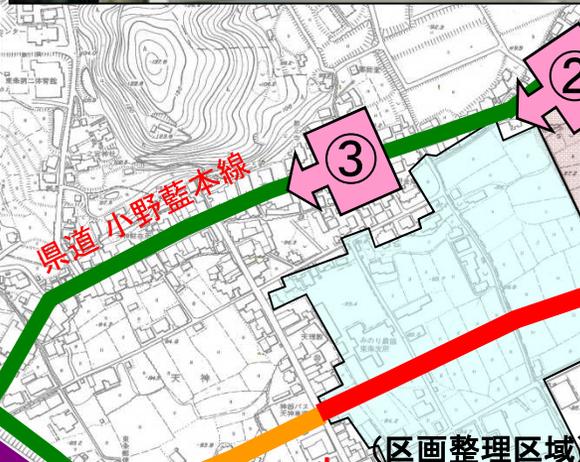
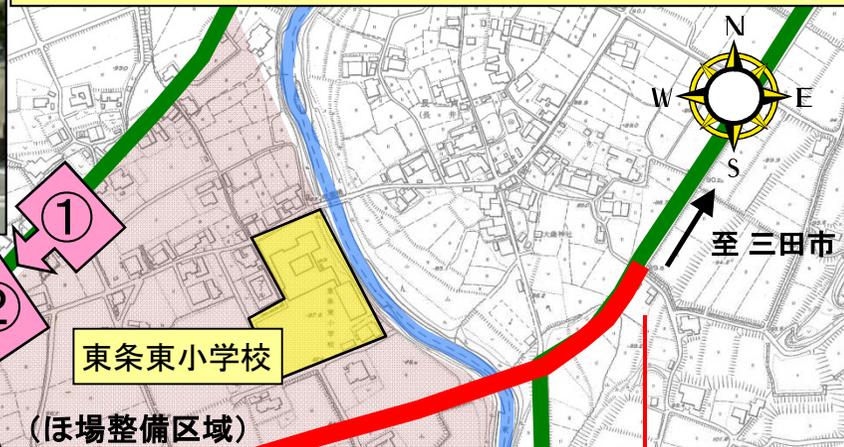


- 凡 例
- : 高速道路
 - : 県道
 - : 市道
 - : 事業区間(事業中)
 - : 事業区間(供用済)

道路一4

現況状況

■現道は幅員狭小であるため、大型車のすれ違いが困難であり、また、歩道が未整備であるため、交通安全上の課題を有している。



1工区 L=580m
(H16供用済)

市道

2工区 L=1,018m(事業中)

- 凡 例
- : 高速道路
 - : 県道
 - : 市道
 - : 事業区間(事業中)
 - : 事業区間(供用済)

道路-5

通学路状況図

■ 現道、市道を利用して小中学生が通学しているが、歩道が未整備であるため危険な状況である。バイパスへの通過交通の転換と歩道整備により、通学生の安全な通行を確保する



掬鹿谷・天神地区
通学児童29名

黒谷地区
通学児童26名

少分谷・長貞地区
通学児童21名

東条東小学校

永福台地区
通学児童19名

東条東地区
通学生徒74名

東条中学校

図書館
文化会館

加東市役所
東条庁舎

森・南山・横谷地区
通学児童71名

1工区 L=580m

市道

2工区 L=1,018m(事業中)

(H16供用済)

- 凡 例
- : 高速道路
 - : 県道
 - : 市道
 - : 事業区間(事業中)
 - : 事業区間(供用済)
 - : 通学路(小学校)
 - : 通学路(中学校)
 - : 通学路(整備後)

1 スケジュール

年度		H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
第1工区 (天神西地区)	調査設計	■	■	■														
	用地補償		■	■	■													
	道路改良工事			■	■	■												
第2工区 (天神東地区)	調査設計						■	■										
	用地補償						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	道路改良工事										■	■	■	■	■	■	■	■
	橋梁工事										■	■	■	■	■			

■ : 当初計画
■ : 実施・計画

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益 (B) の項目

	B(便益)	算出方法
道路事業	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無し of 走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無し of 事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

② 費用便益比 (B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用) (百万円)			B/C	
		便益額(百万円)			総費用	事業費	維持管理費		
道路	主要地方道 小野藍本線	全体事業費	① 走行時間短縮便益	4,094	時間短縮: 約 4 分→約 3 分 計画交通量: 4,200 台/日	1,563	1,498	65	3.1
			② 走行経費減少便益	517					
			③ 交通事故減少便益	168					
			計	4,779					
	残事業費	① 走行時間短縮便益	2,338	時間短縮: 約 4 分→約 3 分 計画交通量: 4,200 台/日	136	71	65	20.7	
		② 走行経費減少便益	318						
		③ 交通事故減少便益	162						
		計	2,818						

(2) 費用対効果に含まれない効果

- ① 自転車歩行者道の整備による歩行者・自転車の安全性確保
- ② 区画整理事業と一体となった道路整備によるまちづくり支援

道路・街路事業の効果

対象事業:道路事業 (主)小野藍本線

(1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による、燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

(2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
①安全・安心の確保	災害時	○ 緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)
		— 救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)
		○ 減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)
	平時	— 救急医療体制の支援
		○ 交通安全対策
②地域の活性化	○ 地域間交流の促進	
	○ 中心市街地の活性化	
	○ 地域産業の活性化	
	○ 観光支援	
	○ 地域プロジェクト等支援	
③円滑な交通体系の確保	○ 公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	
④地域の環境改善	○ 沿道環境の改善 景観形成	
		○ 緊急輸送道路としての機能を強化 (加東市東条庁舎へのアクセス機能強化)
		○ 避難場所(市立東条東小学校)へのアクセス性向上
		○ 自転車歩行者道の整備による歩行者・自転車の安全性確保
		○ 旧東条町から三田市、小野市へのアクセス性向上
		○ 旧東条町中心地の円滑な交通の確保
		○ 旧東条町内の宿泊・レジャー施設へのアクセス性向上
		○ 旧東条町内の観光施設へのアクセス性向上
		○ 区画整理事業と一体となった道路整備
		○ ひょうご東条IC(中国自動車道)へのアクセス性向上
		○ 通過交通の転換による現道(幅員狭小)の沿道環境の改善

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	①地元説明会等において、早期供用を望む声が非常に多い。 ②また、東条東小学校からも通学利用の観点から、早期供用が期待されている。
-------	---